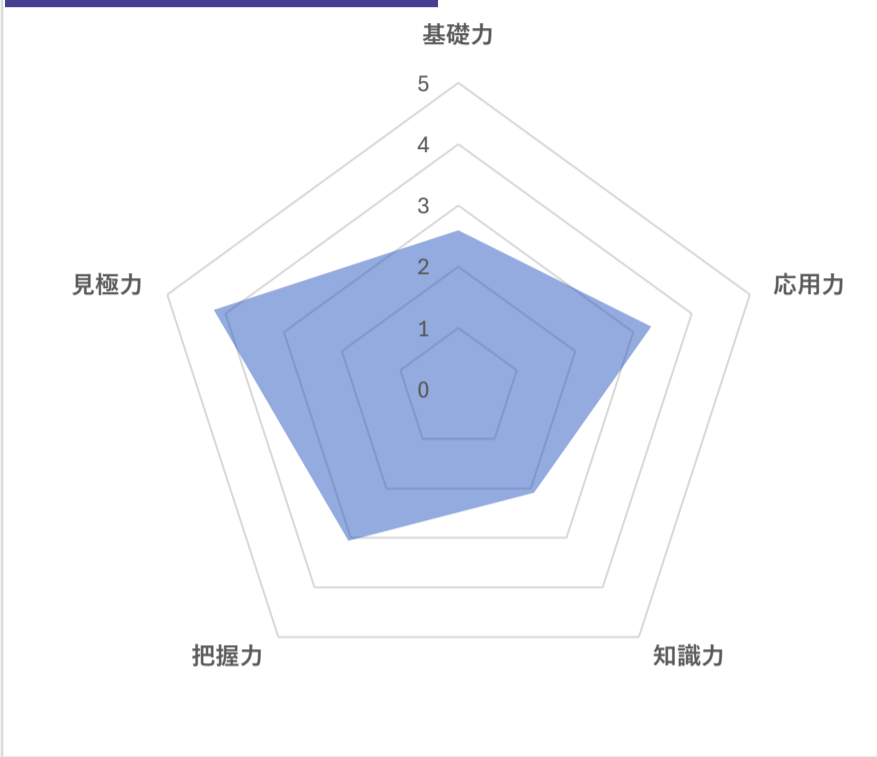


総合分析

試験区分	一般 (1日目)
------	----------

制限時間	70分 (物理単科70分)	大問数	全 4 問
------	---------------	-----	-------

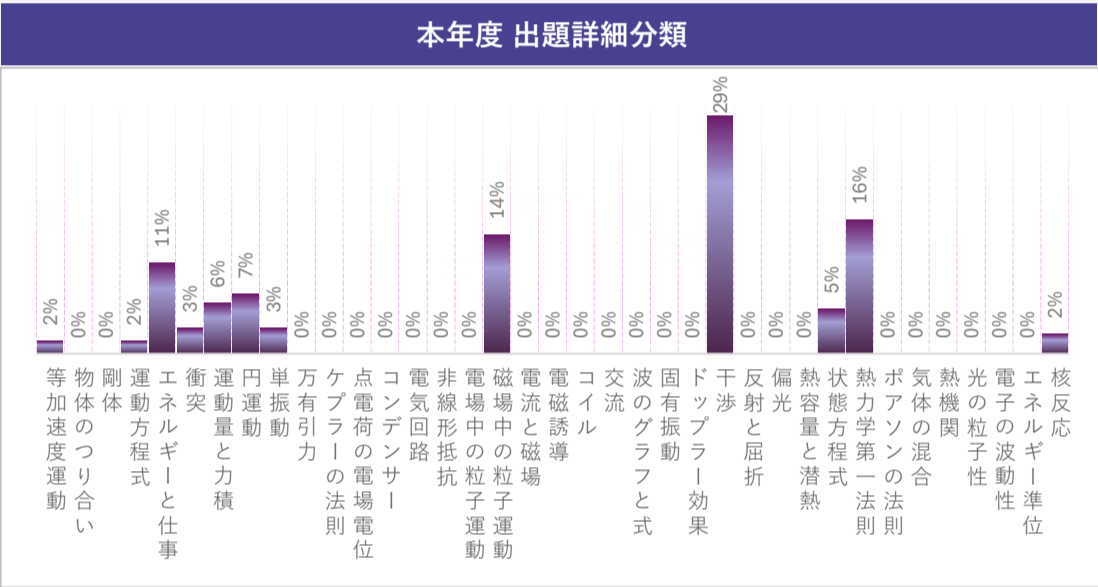
合格に要する能力 (5段階)



出題分野	
力学	33%
電磁気学	14%
波動	29%
熱力学	21%
原子物理	2%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	衝突とばねと摩擦
第 2 問	質量分析器
第 3 問	光の干渉
第 4 問	封入気体の状態変化

本年度 解答形式	
選択肢	50%
答えのみ記述	50%



合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.4	原理についての理解
応用力	3.1	演習経験による慣れ
知識力	1.9	用語を正確に覚えているか
把握力	2.9	臨機応変に状況を把握する力
見極力	4.0	解きやすい問題を選択する力

特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

特記事項: 特になし

総合評価

難度	2.9	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	68%
分量	75分	完答に要する時間 (制限時間は70分)	やや多い	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

入試から見る 大学が求める学生像

殆どの大問で最後の小問(5)において難度が跳ね上がる。それ以外を確実にこなし、どの大問の(5)を解くかを見極めが合格の要である。総じて、理解した知識を正確に利用する力と、難問に挑む姿勢が求められているのだろう。